

安倍語録

2012年12月 衆議院選挙自民党公約 (参考資料①)

- ・ 全てのエネルギーの可能性を徹底的に掘り起こし、社会・経済活動を維持するための電力を確実に確保するとともに、原子力に依存しなくてもよい経済・社会構造の確立を目指します。
- ・ 原子力の安全性に関しては「安全第一」の原則のもと、独立した規制委員会による専門的判断をいかなる事情よりも優先します。原発の再稼働の可否については、順次判断し、全ての原発について3年以内の結論を目指します。安全性については、原子力規制委員会の専門的判断に委ねます。

2013年1月30日 衆議院本会議

前政権が掲げた二〇三〇年代に原発稼働ゼロを可能とするという方針は、具体的な根拠を伴わないものであります。これまで国のエネルギー政策に対して協力をしてきた原発立地自治体、国際社会や産業界、ひいては国民に対して、不安や不信を与えました。このため、**前政権のエネルギー・環境戦略についてはゼロベースで見直し**、エネルギーの安定供給、エネルギーコスト低減の観点も含め、責任あるエネルギー政策を構築してまいります。

2013年2月19日 参議院予算委員会

収束ということで前政権がそう判断をしたわけではありますが、**とても収束と言える状況ではない**というのが我々安倍政権の認識であります。

2013年2月28日 第183国会施政方針演説

東京電力福島第一原発事故の反省に立ち、原子力規制委員会の下で、妥協することなく安全性を高める新たな安全文化を創り上げます。その上で、**安全が確認された原発は再稼働します**。

2013年5月13日 参議院予算委員会

一昨年のある東京電力福島第一原子力発電所の**過酷事故の反省として**、まずこの安全、**絶対安全というものはないんだ**ということであります。

2013年9月8日(日本時間) 国際オリンピック委員会総会 (参考資料②)

汚染水による影響は福島第一原発の港湾内の0.3平方キロメートル範囲内の中で**完全にブロックされています**。

福島近海で私たちはモニタリングをおこなっています。その結果、数値は最大でもWHOの飲料水の水質ガイドラインの500分の1であります。これが事実です。

そして我が国の食品や水の安全基準は世界でも最も厳しい基準であります。食品や水からの被ばく量は日本どの地域においてもこの基準の100分の1であります。

つまり**健康問題については、今までも、現在も、そして将来も全く問題ない、ということをお約束いたします**。

さらに完全に問題のないものにするために抜本解決に向けたプログラムを、私が責任を持って決定し、既に着手しております。実行していく、そのことをはっきりとお約束を申し上げたいと思います。

2013年10月15日 第185国会所信表明演説

食品や水への影響は、基準値を大幅に下回っている。これが、「事実」です。

抜本解決に向けたプログラムも策定し、すでに着手しています。今後とも、東京電力福島第一原発の廃炉・汚染水対策を、全力でやり抜いてまいります。東京電力任せにすることなく、国が前面に立って、責任を果たしてまいります。

2013

9月15日全原発停止

2014年1月24日 第186国会施政方針演説

これまでのエネルギー戦略をゼロベースで見直し、国民生活と経済活動を支える、責任あるエネルギー政策を構築します。原子力規制委員会が定めた世界で最も厳しい水準の安全規制を満たさない限り、原発の再稼働はありません。徹底した省エネルギー社会の実現と、再生可能エネルギーの最大限の導入を進め、**原発依存度は可能な限り低減**させてまいります。

2014年1月28日 衆議院本会議

そう簡単に、**原発はもうやめる、もうやめたというわけにはいきません。**

2014年3月10日 記者会見

2020年にはオリンピック・パラリンピックが開催されます。(中略) 三陸海岸から仙台湾を通り、福島を浜通りへ、津波や**原子力の被害から見事に復興**を成し遂げた東北の被災地を聖火ランナーが走る姿は、日本のみならず世界に勇気を与えてくれることでしょう。

2014年4月11日 エネルギー基本計画閣議決定

原子力の位置付け
燃料投入量に対するエネルギー出力が圧倒的に大きく、数年にわたって国内保有燃料だけで生産が維持できる低炭素の準国産エネルギー源として、優れた安定供給性と効率性を有しており、運転コストが低廉で変動も少なく、運転時には温室効果ガスの排出もないことから、安全性の確保を大前提に、エネルギー需給構造の安定性に寄与する**重要なベースロード電源**である。

2014年9月22日(現地時間) World Leaders Forum (参考資料③)

我々は過酷な事故を経験をいたしましたから、**完全に安全を確認しない限り原子力発電所は動かさない**ということにしておりまして、世界で最も厳しい基準によってですね、独立した原子力規制委員会が安全と判断したものについてのみ、稼働をしていくという考えであります。

2014年9月29日 第187国会所信表明演説

原子力規制委員会により求められる安全性が確認された原発は、その**科学的・技術的な判断を尊重し再稼働を進めます**。立地自治体を始め関係者の理解を得るよう、丁寧な説明、避難計画の充実支援などに取り組みます。徹底した省エネルギーと再生可能エネルギーの最大限の導入により、**できる限り原発依存度を低減させてまいります**。

そして実際には？

国内>>

川内原発の設置変更許可を受けて再稼働を推進

海外>>

2013年4月 日・トルコ原子力協定署名 (2014年6月効力発生)

2013年5月 日・UAE原子力協定署名 (2014年7月効力発生)

※他にインド、南アフリカ、ブラジル、メキシコと原子力協定交渉中 (参考資料④⑤⑥)

2014年11月 原子力損害の補完的補償に関する条約加盟 国会承認

1つの四角が1ヵ月
青色は原発稼働0基の期間

感想をほんの少しだけ。。

この2年間で「原発依存度を低減」するための具体的な動きはまったく見えませんが、その逆の動きは活発です。福島第一原発事故に対する安倍首相の認識は「収束していない」が「影響はブロック」され「健康にも問題ない」、6年後には原子力の被害から「見事に復興」している。

再稼働については

「完全に安全」が確認されないと再稼働はしないが、規制委員会が新規基準に適合すると認めれば、その「判断を尊重し」再稼働を進める。。。ふっふっふ、訳が分かりませんね。筋道立てて説明できる人がいたら説明して欲しいです。

(参考資料)

①自民党HP 第46回衆議院選挙 自民党政権公約

<https://www.jimin.jp/policy/manifest/>

②IOC総会安倍首相発言 (プレゼン後の質疑応答文字起こし)

<http://brownmorning.s3-website-ap-northeast-1.amazonaws.com/html/statements/20130908IOC.html>

③政府インターネットテレビ「コロンビア大学訪問-平成26年9月22日(現地時間)」

<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg10523.html>

④原子力委員会 平成25年 第20回会議資料「原子力協定」

<http://www.aec.go.jp/jicst/NC/iinkai/teirei/siryu2013/siryu20/index.htm>

⑤外務省HP 日・トルコ原子力協定

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/page22_000601.html

⑥外務省HP 日・UAE原子力協定

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/page22_000600.html